松戸市初の私立高校として開校

地域に溶けこむ教育を実践

専修大学松戸高校創立50周年記念式典第1部の式辞で富山尚徳・学校法人専修大学松戸高校理事長は「昭和34年に松戸市の要請に応え、市内初の私立高校として開校以来50年、地域社会に溶けこむ教育を実践してきました。今後も人間力を高める教育の場にしていきたい」、桝谷有三校長は「高い学力と国際的リーダーとして活躍できる人材を輩出していきたい」と決意を述べた。

来賓の日高義博専修大学理事長・学長が「高校は正しい価値観や世界観を身につける人格教育の場。大学と同じ建学の精神で学んでいることは非常に重要であり、今後も連携関係を大切にしていきたい」と祝辞を述べたほか、石渡哲彦千葉県副知事、本郷谷健次松戸市長らから、さらなる飛躍を期待する祝辞が寄せられた。

▶ 祝辞を述べる日高理事長

▲ 桝谷校長が姉妹校の提携を結んだサウスウエスト高校のロブ・スローソン校長らを紹介

専修大学松戸高校 50年のあゆみ刊行

「専松」の愛称で市民に親しまれている同校は、専修大学創立80周年記念事業の一環として創設された。昭和34年4月の入学式は神田校舎、開校時は仮校舎だった苦難の時代から50年、県内の中等・高等教育機関を支える重要な役割を担う高校に成長し、地域に溶けこんでいく様子と、次代を担う「専松生の今」が記されている。創立50周年記念誌刊行委員会の一員として専修大学史編集主幹の青木美智男元文学部教授が執筆。

創立50周年企画

地図で読み解く 松戸の現在・過去・未来

創立50周年記念企画として「地図で読み解く 松戸の現在・過去・未来」と題したシンポジウムが9月20日、松戸商工会議所で開催された。熊木洋太文学部教授＝写真左＝の講演の後、上原秀明文学部教授、福島義和文学部教授らが成果を報告＝写真上。約120人が地域の変遷を学び、未来像について考えた。

歴史を紐とく

エクステンションセンター公開講座

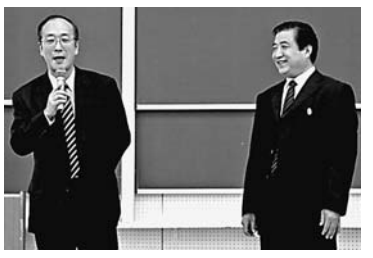
今年は平城京遷都1300年にあたる。毎年好評のエクステンションセンター公開講座「歴史を紐とく」は「平城京」を共通テーマに生田キャンパスで6講座が開かれた。市民ら500人が毎回熱心に耳を傾けていた。

10月2日は、荒木敏夫文学部教授が「飛鳥京と平城京」をテーマに遷都の歴史的意義を解説。荒木教授は「歴史の痕跡をたどると7世紀の遺産は8世紀にそのまま受け継がれたのではなく意図的に断絶したと思われる部分があり〝文化の取捨選択〟が行われてきたことが分かる」と語った。

続いて矢野建一文学部教授が「平城京と市の風景」と題し、古代の人々が市をどのように構成してきたのか、日本書紀をひもとき、交易だけではなく多彩な役割を担っていた平城京の市の様子を語った。

10月9日は、王維坤（おういこん）客員教授（西北大学文化遺産学院教授、西北大学日本文化研究センター主任）が「長安京と平城京」と題し講演した。隋唐の長安城と平城京の通りや坊の配置、大きさなどを比較し、平城京には長安城を模倣したと思われる部分が多く見られると解説した。

▲ 荒木敏夫教授の講演



▲ 矢野建一教授と王維坤客員教授

遷都1300年「平城京」テーマに6講座

その他の講師とテーマは次の通り。

▼10／9＝田中禎昭文学部非常勤講師・すみだ郷土文化資料館学芸委員「平城京の軍楽隊」▼10／23＝土生田純之文学部教授「長屋王家のくらし」、高久健二同教授「古代朝鮮の都を探る」

「大学院公開講座」開催中

本学教員ら講師陣がホットな話題を分析

大学院公開講座は、現在の日本が抱える問題について、本学教員ら講師陣が研究者の視点から検討し、展望や課題を探る。会場の神田キャンパスには毎回熱心な聴講者が訪れている。

10月1日から22日まで、全4回行われたPART1「日本の安全保障と基地問題」は4氏が講演。第1回は佐島直子経済学部教授が「アジア・太平洋地域の安全保障―ARFの現状と課題―」と題し、日本を取り巻く現状と、周辺地域で設けられている安全保障システムを解説。「領土問題、テロなどの新たな脅威に対し、ASEAN地域フォーラムをはじめとした既存のシステムを活用していくことが現状ではベストである」と論じた。

▲ 「安全保障」の定義について説明する佐島教授

11月12日からはPART2「ソーシャル・ビジネスの課題と展望」がスタート（毎週金曜、12月3日まで）。神原理商学研究科教授、加藤茂夫経営学研究科教授ら4氏が子育て支援や環境保全などさまざまな社会・経済的課題に取り組む事業活動「ソーシャル・ビジネス」が十分に成果を発揮するための課題を検討する。詳細はホームページで。圓大学院事務課☎03（32265）6568

連携 大連 高大

9月から11月にかけて付属高校や高大連携協定校との連絡活動が行われている。このほか11月4日には、神奈川総合高校で寺尾格経済学部教授が「ドイツ語Ⅱ」の特別授業で講師を務めた。

●専大附属高校
９／17＝専大附属高で「Hi・Yo・Koの会」が「先輩と語る会」を開催

●県立生田東高校
10／８＝１年生240人が１日体験入学

●都立成瀬高校
９／25＝１年生280人が１日体験入学

●県立麻生高校
11／９＝１年生276人が１日体験入学

●県立座間総合高校
11／８＝外国籍生徒と本学留学生とのランチミーティングを初開催

専修人の新しい本

広瀬 裕子法学部教授著

イギリスの性教育政策史：自由化の影と国家「介入」

「日本教育行政学会賞」を受賞

広瀬裕子法学部教授（教育行政学）の著書『イギリスの性教育政策史：自由化の影と国家「介入」』（勁草書房）が「特に優れた教育行政研究」に与えられる日本教育行政学会賞を受賞した。10月2日、筑波大学で開催された日本教育行政学会第45回大会の席上、授賞式が行われた。

同書はサッチャー政権下で具体化した性教育義務必修化政策の形成過程を壮大なスケールで描きながら、国家による私的領域のメンテナンスという近代原則では説明できないパターンの政策の登場を浮き彫りにした。と同時にそれが、自由と価値の多元化が広まる成熟した近代の宿命であることをも示した。

「性」を教育政策の領域で扱った異色作でもある。

佐々木重人著

近代イギリス鉄道会計史

ロンドン・ノースウェスタン鉄道会社を中心に

本書は、会計原則が確立されていなかった19世紀前半から中頃のイギリスにおいて、当時の経済社会に大きな影響力を有していた鉄道会社の会計実務に注目する。

特に鉄道会社の資本調達とそれに伴う配当金の財源確保という財務問題が、次第に経営者によって認識されつつあった発生主義会計のあり方にどのように影響を与えたのかについて、合併を通じてより大きな鉄道会社（ロンドン・ノースウェスタン鉄道会社）が誕生し発展をする過程と関係付けながら明らかにされる。

本書における考察の基本は、鉄道会社が公表した取締役報告書における記述とそこに記載されている各種の会計報告書の徹底的な分析にある。（国元書房・本体3100円＋税）

著者（ささき・しげと）＝商学部教授。担当は会計史、簿記論Ⅰ・Ⅱ。

「明日のIT経営のための情報システム発展史」シリーズ全4巻

総合編・製造業編・流通業編・金融業編

経営情報学会情報システム発展史特設研究部会編

日本の企業の情報システム化は1950年代に始まり、現在の経営深部までITが組み込まれたIT経営の実践まで、すでに50年以上が経過している。その間、情報システムは業務の合理化、経営の迅速化・高度化、経営戦略の形成や新たなビジネスの創出を図りながら経済成長を支えてきた。

本書は、経営情報学会情報システム発展史特設研究部会の2年間にわたる研究成果。過去の貴重な情報システム発展の歴史を研究し、先達が築いてきた経験と知恵を継承して今後のIT経営や情報システム化の推進、人材育成に役立てようと企画されたもの。

同研究部会の幹事を務める内野明商学部長（経営数学など担当）が総合編と流通業編を担当している。（専大出版局・各本体2800円＋税）

公開講座情報

大学院商学研究科・東京信用保証協会共同公開講座「中小企業経営の国際戦略」▼日時：12月4日（土）13時▼場所：神田キャンパス ※本学学生・大学院生は大学院事務課に申し込みを。

社会知性開発研究センター／社会関係資本研究センター・シンポジウム「安心・安全社会への視座と課題―日本・アジア・欧米の対比を通して―」▼日時：12月11日（土）14時▼場所：神田キャンパス▼神野直彦・東京大学名誉教授による基調講演とパネルディスカッション 圓社会知性開発研究センター☎044（911）1347